

授業科目名： 自然地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木 正章 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・人文地理学・自然地理学		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>自然地理学の地理学における位置とその対象が地球の地表面の岩石圏・水圏・大気圏である理解できるようになる。また、地表面を把握するためのツールとしての地形図を使った作業を通して地表空間の地形が理解で出来るようになる。</p> <p>地表面の凹凸がどのような成因で形成されるのか、その結果としてどのような地形が形成されるのかを理解できるようになる。</p> <p>本講義では地形学を中心に自然地理学の理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>自然地理学の地理学における位置、その系譜を講述し、地形図の作業を通して地表空間を理解する。また、地形の形成要因からどのような結果としてどのような地形がつくられるのかを講述する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：自然地理学の地理学の位置とその系譜</p> <p>第2回：地理学とその方法</p> <p>第3回：地形図の理解Ⅰ（地図の種類と用途・地形図の中に盛り込まれている情報）</p> <p>第4回：地形図の理解Ⅱ（等高線から地形を読む）</p>			

第5回：地形図の理解Ⅲ（断面図や谷線・尾根線の書き方）

第6回：地形形成営力Ⅰ（地形を形成する原因と種類）

第7回：地形形成営力Ⅱ（マスマーブメントなど）

第8回：地形形成営力Ⅲ（河成作用の侵食・運搬・堆積作用）

第9回：地形形成営力Ⅳ（デービスの浸食輪廻など）

第10回：第四紀における氷河性海面変動

第11回：氷河地形

第12回：平野の地形Ⅰ（構造平野・ケスタ地形・丘陵・洪積台地）

第13回：平野の地形Ⅱ（扇状地・氾濫原平野・三角州・海岸地形）

第14回：断層地形と活断層

第15回：火山活動と火山地形

定期試験

\*スクーリングではすべての内容を包括的に扱う。

教科書

「自然のしくみがわかる地理学入門」（水野一晴著、ベレ出版刊）

参考文献

(1) 『詳解現代地図』など、中学校・高等学校で使用する地図帳

(2) 杉谷 隆他『風景の中の自然地理』古今書院 2005年

(3) 貝塚爽平『東京の自然史』講談社学術文庫 2011年

学生に対する評価

レポート評価（25%）、スクーリング評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。